

大学との連携ワークショップ「薬剤師に求められるコミュニケーションスキル -模擬患者(SP)参加型コミュニケーション教育の実際-」

- オーガナイザー：福島 昭二(神戸学院大学薬学部 臨床薬学部門 臨床薬剤学研究室 教授)
上町亜希子(神戸学院大学薬学部 臨床薬学教育研究推進部門 講師)
福島 恵造(神戸学院大学薬学部 臨床薬学部門 助教)
江原 里佳(神戸学院大学薬学部 臨床薬学教育研修センター 実習助手)
- ファシリテーター：大歳 美子((株)阪神調剤薬局 阪神調剤薬局SP研究会 / 東兵庫エリア兵庫第1ブロック長)
船路 浩平((株)阪神調剤薬局 阪神調剤薬局SP研究会)
森松 智之((株)阪神調剤薬局 阪神調剤薬局SP研究会 / 兵庫中央エリア 統括マネージャー)
北條 大介(阪神調剤ホールディング(株) 阪神調剤薬局SP研究会)

厚生労働省は2019年4月2日付で「調剤業務の在り方について」(薬生総発0402第1号)を都道府県などに発出し、薬剤師免許を有しない者に対して一部の調剤業務を認めました。調剤に代表される対物業務は機械化されていくことでしょう。今後、薬剤師の業務は対人業務にシフトするのは必至です。対人業務で重要になるのはコミュニケーションであることはいうまでもありませんが、世の中は人工知能(AI)を使つての服薬支援するロボットなどシステム開発に着手しています。そのような時代で薬剤師に求められるコミュニケーションスキルとはどのようなものでしょうか。患者さんの個性を重視した薬物治療を展開するためにも、患者さんの話を十分に聴く必要がありますが、薬剤師は聴いたつもりでいても、患者さんの多くはまだ話せていない、という物足りなさを感じて、薬局を後にされることが少なくありません。これは一人の患者に十分に時間をかけたら解決するのではなく、一定のコミュニケーションスキルを持たない薬剤師はどれだけ時間をかけても患者から聴きだすことはできません。

今、神戸学院大学薬学部を含む多くの医療系大学では一般市民の方に模擬患者(SP: Simulated Patient)として参加していただき、臨床の場をリアルに再現してコミュニケーショントレーニングを行っています。神戸学院大学では特に力を入れています。

今回のワークショップでは、模擬患者(SP)参加型コミュニケーション教育の実際を体験していただき、短時間でも密度の濃いコミュニケーションの実践を目指し、患者の満足度が上がる傾聴のあり方と共感的スキルを学びます。薬剤師同士が行うロールプレイにはない、SPとのロールプレイで、リアリティと教育効果の高さを感じていただき、薬剤師自身コミュニケーションスキルアップ、薬局内での社内研修、実務実習の指導などに活用してください。